

【教科名】	【領域・単元名】
-------	----------

【① 指導内容】

A	B	C
★教科書や学習指導要領、個別の指導計画から記入します。 ・本単元で指導する内容を記入します。個々の内容を確認しておくことで、学び合いにつなげることができます。 〈特支 CS 知的の場合〉児童生徒の実態から、学習指導要領で指導内容を確認しましょう。 ホームページ資料「各教科の段階表(算・数)」は☆本の内容を整理して表しています。参考にしてください。		

【② 児童生徒の実態】（障がいの状態や特性等に関する姿も含む）

児童生徒名	A	B	C
これまでの各教科等に関する姿	★本単元の教科、領域にかかわる実態、児童生徒の強みや支援が必要なところを記入します。 ・個別の指導計画を基に記入しましょう。 ・児童生徒の強み、特に支援が必要だと思われる姿についても考え、記入してみましょう。 ・障がいの状態や特性等に関する姿についても考えてみましょう。 〈特支 CS 知的の場合〉実態把握が難しいと感じられる場合は、「特別支援学校学習指導要領 各教科等編」、ホームページ資料「各教科の段階表(算・数)」を参考にしてみましょう。		
強み			
支援が必要などところ			

【③ 個々の単元(題材)のねらい[知・思・学の観点]と手立て】

児童生徒名	A	B	C
ねらい	★①②をもとに、「個々の単元(題材)のねらい」を記入します。 ・3つの観点で表しましょう。 〈特支 CS 知的の場合〉単元が終わったときにめざす児童生徒の姿を考え記入しましょう。児童生徒がもっている力を生かせるよう、少しがんばれば達成できると思われる姿で表しましょう。		
手立て	(障がいの状態や特性等に対する手立ても含む) ★②をもとに、「手立て」を記入します。 ・②で表した強みを活かすための手立て、特に支援が必要などところにかかわる手立てを考え、記入しましょう。個々の手立てに併せ、集団全体で考えられる手立てについてもあれば記入しましょう。		

【④ 主な活動内容】

特支 CS 知的の場合のみ、①～③を踏まえて
活動内容を考え、この欄に記入しましょう。



※〈特支 CS 知的〉のみ記入する欄です。

- ・まず、特別支援学校小・中学部知的障がい者用教科書（☆本）から活動内容を考えてみましょう。ホームページ資料「各教科の段階表（算・数）」も参考にしてください。
- ・☆本に示された内容から、さらに児童生徒の実態や学校の状況に合わせて工夫することで、児童生徒が意欲的に取り組む姿や学びの深まりにつながります。児童生徒の好きなこと、学校生活での体験（流行っていること、行事、日々の出来事等）などを取り入れて考えましょう。



【⑤ 単元（題材）計画】

単元（題材）名（ ） 全（ ）時間

月日 ()	次	時	ねらい 児童生徒へ提示するねらい	主な学習活動	準備物	記録 次回への改善点
/			★①～④をもとに、単元の大まかな計画を立ててみましょう。 ・各次時の「ねらい」を考えてから、そのねらいに迫るための「主な学習活動」を考えてみましょう。さらに、そこで必要なものについてイメージし、「準備物」を記入しましょう。 ・自分の思考を整理するための計画です。記入する内容は、大まかなメモ程度のものでかまいません。 ・計画を変更したい場合、新しく活動を追加したい場合も自由に記入しましょう。 ・書き方がイメージしにくい場合は、記入例をご覧ください。			
/						
/			★各次時での児童生徒の姿を簡単に記録しておきましょう。 ・児童生徒の変容、学びの姿からの気づき、指導方法や支援内容の改善点など、メモ程度でよいので記入しておきましょう。			
/						
/						
/						

【⑥ 本時（次ページ）】

【⑦ 評価】

学習の様子	
A	★<u>単元終了後に、振り返りをしましょう。</u> ・児童生徒の学習の様子を思い浮かべてみましょう。そして、その姿に自分の手立てがどう活かされていたか（または活かされていなかったか）考えてみましょう。 例1. 様子：『校内で三角形のものを探すとき、3つの辺を指でなぞって「1, 2, 3」と言いながら見つけていた。』 ↓ 手立て：『体感を通した活動○』 例2. 様子：『繰り上がりのたしざんで「8と1で10だから」と言いながら計算することもあった』 ↓ 手立て：『10のまとまりが定着するように、具体物の操作を毎時間ゲームとして取り入れよう!』
B	
C	
自分の手立てについて気付いたこと（障がいの状態や特性等に対する手立ても含む）	

